

刊行のことば

福生市は武蔵野台地の西端に位置し、多摩川の河岸段丘にひらけたまちであります。

昭和四十五年七月に市制施行した福生市も、人口六万人を越え、西多摩の中核都市として発展しています。

市制が実現したころの福生市は、まだ農地や空き地が随所に見られ、現在の田園地区や加美平地区は区画整理が進行中であり、田園のおもかげを残しておりました。それが、この間の経済情勢の変化や開発にともない宅地化が進み、日常生活においては生活習慣や近隣関係など、私達の周囲を取り巻く状況も日々変化を強いられてきました。世界的にはボーダーレスの時代を迎え、日本経済の発展とともに福生市域にも国際化の波が押し寄せています。時代は変貌のスピードを速めています。

このため、福生市域に生きた多くの先人が遺し伝えてきた生活習慣や資料などの貴重な歴史遺産が、開発や生活様式の変化などの中で失われようとしています。

このようなとき、この残された貴重な歴史遺産を受け継ぎ、記録し、これを次世代に伝えることは、福生市域に住む人々や行政の責務であるとの考えのもとに『福生市史』の編さんがはじめられました。この間十数年におよぶ調査研究の成果は研究誌や資料集としてまとめられ、それをもとに上下巻からなる通史の完成にむけて準備を進めてまいりましたところ、ここに念願の通史を刊行することができました。

本書は市内外の多くの個人・機関のご協力によりまとめられております。郷土としての福生市の歴史を理解するため、市民の皆様をはじめ、多くの方々に読まれ、利用されますことを願うものです。

最後になりましたが、当初に編さん事業を推進された田村匡雄前市長ならびに市議会をはじめ、貴重な資料を快く提供された多くの資料所蔵者・関係諸機関に対し厚く御礼申し上げますと共に、また市史編さん委員・編集専門委員ならびに執筆を担当された皆様、調査に参加ご協力いただいた方々にあらためて感謝申し上げる次第です。

平成五年六月

福生市長 石川 彌八郎